

裾野市史調査報告書 第三集

# 葛山居館跡遺構確認調査概報

(付同出土陶磁片図版及び解説)

1 9 9 3

裾野市教育委員会市史編さん室



## 例 言

- 1 本書は静岡県裾野市葛山小字中村439番地先にある葛山居館跡内の遺構確認調査の概報である。
- 2 調査は、裾野市教育委員会市史編さん室が年度予算内の調査費により実施した。
- 3 調査期間 1992年7月22日～8月8日
- 4 調査体制は、次の通りである。

調査主体 裾野市教育委員会

調査責任者 裾野市教育委員会教育長 芹澤 仁

調査主任 裾野市史編さん専門委員 中野国雄

調査員 裾野市史専門委員 有光友学

裾野市史調査委員 石田義明 渡瀬 治 松崎真吾 仁藤敦史 東島 誠  
沼津市歴史民俗資料館主任学芸員 瀬川裕市郎

調査補助員 勝又仁美 山本孝也 小林達哉 杉崎貴英 佐藤東史 柏木恵理子

協力員 裾野市教育委員会社会教育課 袴田 稔 井上輝雄

現場統括 裾野市史編さん室長 長谷川博

事務局 倉沢庄次郎 中野鈴子 亀崎浩子 濱田 明 永野武信 泉谷美保

発掘員 上城区 坂田文雄 市川静夫 大川秀次 大川守幸

中村区 兼井 登 杉山喜信 瀬戸太己 小見山博文

下条区 勝又常一 岩佐 勲 荻田幸一郎 荻田憲雄

田場沢区 芹沢正己 芹沢正則 芹沢友治 中村 久

中里区 深沢英明 杉山照子 杉山睦美 中野和美

裾野市立富岡中学校生徒

地区協力者 葛山城址保存会会長 岩佐貞良 同副会長 入山光信 勝又文雄

上城区区長 勝又文雄 中村区区長 若林 敏

下条区区長 勝又重博 田場沢区区長 芹沢勝太郎

中里区区長 真田好雄

荻田人見（中村） 勝又好一（中村） 荻田房雄（下条）

（株）山水園 兼井あや子

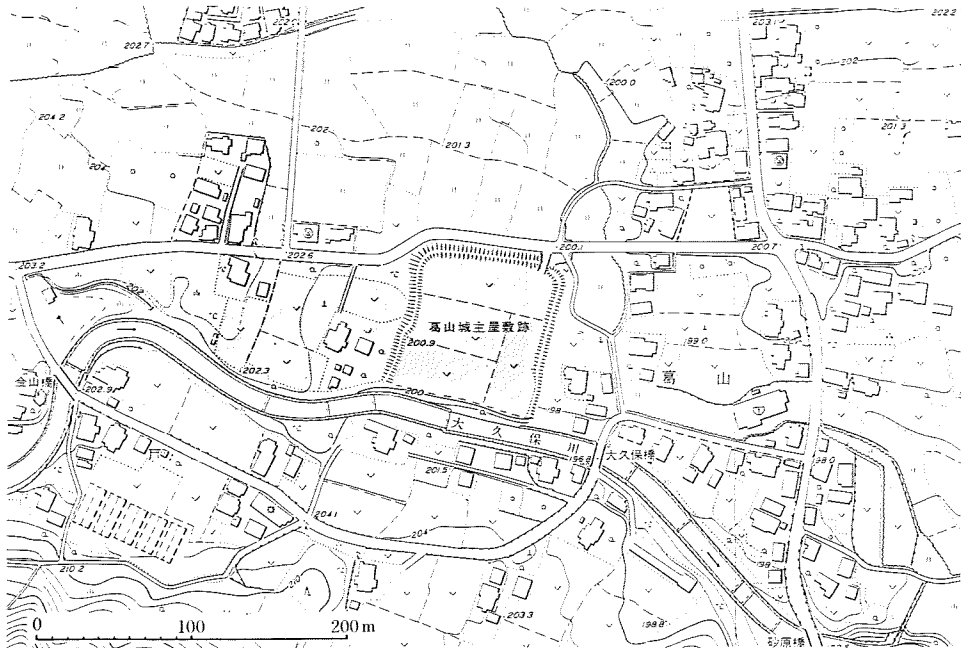
- 5 本書の編集は中野国雄が行い、渡瀬 治、瀬川裕市郎の協力を得た。
- 6 図版、写真等の整理・作成は、中野国雄、勝又仁美、永野武信が担当した。
- 7 遺物、実測図、写真等は、裾野市教育委員会が保管している。

# 目 次

## 例 言

I 遺跡の概要と調査経過 .....	1
1. 位 置 .....	1
2. 遺跡の概要 .....	1
3. 調査の目的と調査に至るまでの経過 .....	1
4. 調査経過 .....	2
II 調査の結果 .....	5
1. 土 層 .....	5
2. 遺 構 .....	7
3. 遺 物 .....	9
ま と め .....	10





第2図 葛山居館跡範囲図

定できるが、直接資料によるものは現在のところ発見されておらず確実性に欠けている。また遺構についても、土塁と門址だけであって、内部の遺構は確認されていない。

裾野市史を編さんしていく上で、中世の主体となるものは葛山氏に関する資料であり、また地元の葛山城址保存会も居館跡の実体を確かにしたという強い要望もあって、1989年、市史編さん委員会では、葛山居館跡内の遺構を確認する意向を固め、同年、居館跡の実測と井戸址の確認調査、1990年、B号井戸址発掘調査(葛山居館跡井戸発掘調査報告書参照)を経て、今回、内部遺構確認調査を実施することになったのである。

#### 4 調査の経過

1992年7月22日(水) 晴 むし暑し

葛山居館跡内へ発掘調査機材搬入。休憩所、機材置場を設置。発掘調査地区内に発掘調査区A-1～10区、B-1～10区を5mおきに設定。A、Bの間隔は排土のため3m、各A・B-1～10区の幅2.5m、3区毎に幅40cmの土層帯をとる。

7月23日(木) 晴 暑し

発掘作業に先だち、作業方法、注意事項等を指示。A・Bの基点位を居館跡内基準点より測定。レベル基準杭設置。A-2～5区まで、表土除去。第Ⅱ層まで掘り下げ。A-3区表土下に集石、A-5区に焼土検出。表土、第Ⅱ層中から、素焼土器(かわらけ)細片出土。焼土周辺から木炭片検出。

7月24日(金) 晴 暑し

A-2～5区 第Ⅱ層以下掘り下げ。A-6～9区表土除去作業。A-3区集石、A-5区焼土

検出作業。A-3区南壁側に集石基盤確認のため、幅50cmの試掘溝設定掘り下げ。A-6～9区第Ⅱ層以下人為的攪乱状況を観察、表土下40～50cmで堅く締まった黄褐色土層を検出、掘り下げ中止。A-2～9区全体から「かわらけ」細片、A-5区から陶磁片、鉄片、A-8区から青磁片出土。

7月25日(土) 晴 暑さ厳し

A-10区表土除去、さらに深さ50cmまで掘り下げ。東壁に沿い石列を検出。A-3区集石検出作業。A-6～9区黄褐色土層面で柱穴状遺構を検出。A-5区焼土周辺から木炭片多量に検出。A-3区集石実測準備。集石中に陶片出土。B-1区表土除去、さらに掘り下げ。

7月27日(月) 晴 暑さ厳し

A-3区集石の清掃、写真撮影の後実測開始。A-5区焼土周辺検出作業。A-3区集石の東への連続性を確認のためB-3～4区表土除去、掘り下げ。

7月28日(火) 晴 暑し

A-3区集石実測続行。暑さのため作業進まず。A-10区石列基盤面検出。新たにA-11設定、表土除去掘り下げ。A-6～9区柱穴状遺構の東へ連続性を確認のためB-5～8区表土除去。B-3区から鉄滓状遺物を検出したが、自然形成の「たかし小僧」と判断、A-11区南端にて、表土下60～70cmにて段状落ち込みを検出。B-4区第Ⅱ層から銭貨、釘状鉄片出土、B-5区東壁第Ⅱ層で陶器口縁部破片検出、A-4・5区清掃、撮影。本日から裾野市立富岡中学校生徒、排土中の遺物検出作業に参加。

7月29日(水) 晴 暑し

A-3区集石実測終了。A-6～9区柱穴位置を全体見取図に記入。同柱穴上面より掘り下げ。A-9～11区検出の置石、列石を見取図に記入。同レベル測定。B-6・7区の暗黄褐色土面にて柱穴検出。B-9・10区表土除去掘り下げ。

7月30日(木) 晴 暑し

A-6～9区、B-6～9区の柱穴内掘り下げ。B-9区最下部にて溝状の遺構検出。B-10区で東西に並ぶ置石列を検出。このためA-10区の列石、置石との連続性確認のため、AB-10区をD区とし発掘することに決定。井戸址(A号井戸址)確認のため、発掘調査区C区を設定。A-9・10区東壁土層実測。B-10区から銅製品出土。

7月31日(金) 晴 暑し

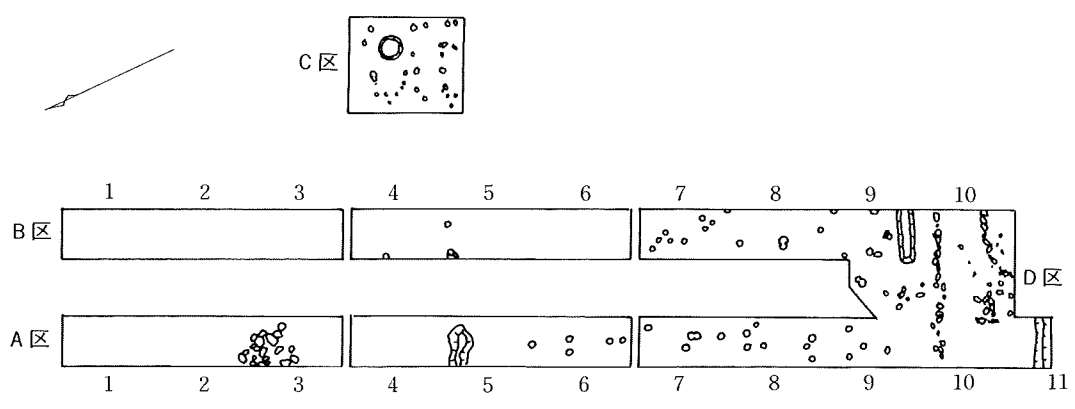
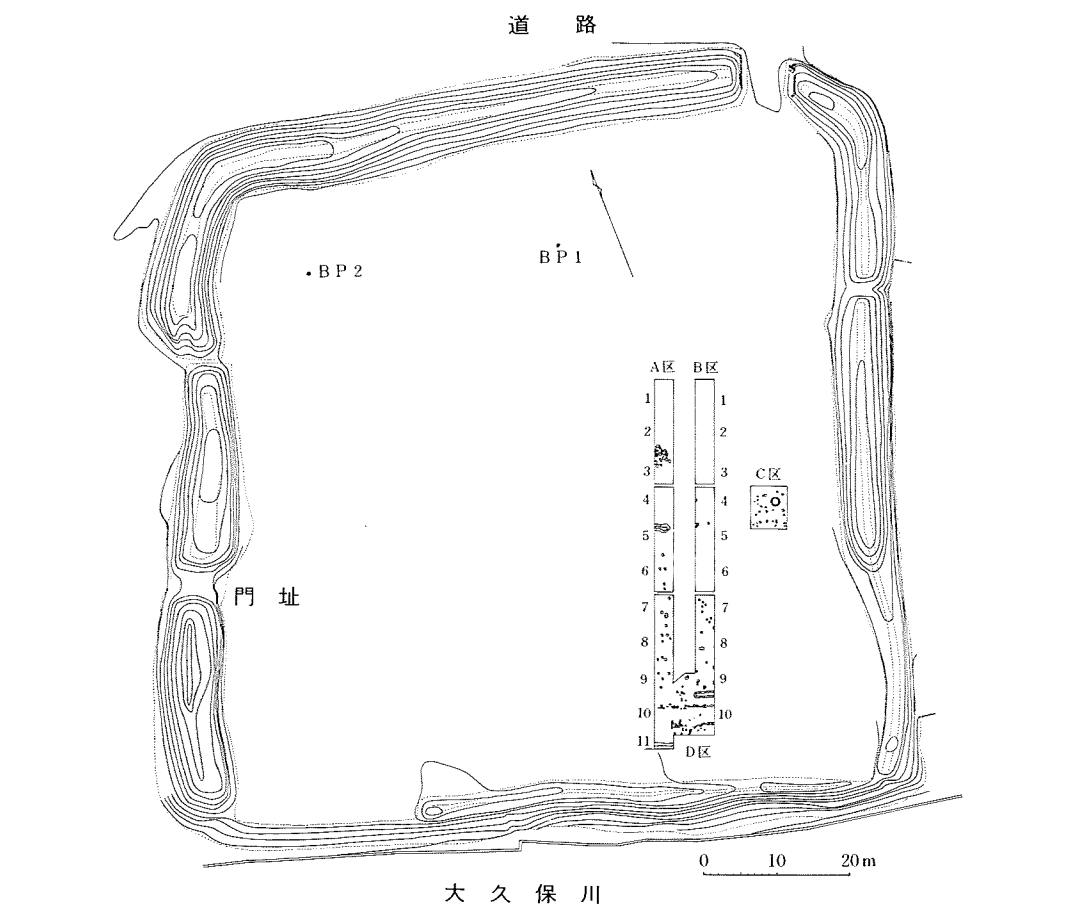
B-6～9区柱穴内掘り下げ。B-9・10区の溝状遺構、列石検出作業。A-10区から陶器片出土。A-6～9区の柱穴実測。A-1・2区をA-3区集石基盤層まで掘り下げ。A-9・10区から磁器片、釘状遺物、「かわらけ」細片出土。

8月1日(土) 晴時々曇り

A-9～11区の清掃、撮影の後、置石、列石を見取図に記入、C区表土除去、第Ⅱ層下部で井戸上面落込土部分と置石を検出。

8月3日(月) 曇り時々晴 午後時々雨

A-9～11区置石・列石の実測。B-6～9区の柱穴、置石実測。C区第Ⅱ層下部の暗黄褐色



第3図 葛山居館跡遺構確認調査区図



砂礫土層上面にて、柱穴を検出。井戸掘り下げのため、排土を南へ一部移動。

8月4日(火)、5日(水)雨天のため作業中止

8月6日(木) 晴 暑し

D区(AB-10区)の発掘のため、B-11区東南側に小型運搬車にて排土を移動。C区柱穴検出作業終了。清掃、撮影後、実測。井戸址掘り下げ作業中、南側に空洞を検出。A-1～3区東壁土層実測開始。

8月7日(金) 曇り時々晴

D区排土の移動終了、表土除去、掘り下げ。列石は東西に連続することを確認。C区井戸址掘り下げ空洞部分検出し、地下式横穴と確認。D区から「かわらけ」破片出土、木炭細片の散布検出。C区西壁、D区東壁(B-10区)の土層実測。

8月8日(土) 曇

C区地下式横穴実測。D区の列石、置石、柱穴検出終了。実測準備作業。

8月10日(月) 晴 暑し

D区実測終了。C区横穴入口部分落込土中から磁器片出土。作業終了し発掘用具、機材等撤去。

8月11日(火) 曇時々晴

発掘区埋戻し作業。本日A-3区西側一部試掘し、集石は西側に連続することを確認。午後4時過ぎ埋戻し終了。

## II 調査結果

### 1. 土層(第4図)

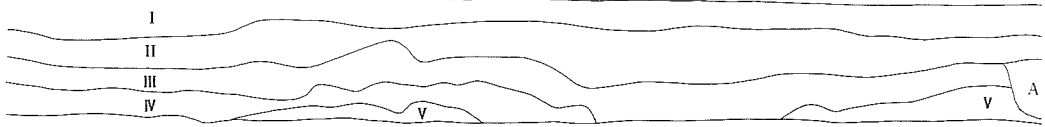
検出された土層は、第4図に示した通りである。自然堆積の状態を示したところはA-1・2区とB-1区試掘溝だけであって、以下、A・B-3～10区、及びC区に於いては、表土下第Ⅱ層から不整形ブロック状の土塊が堆積した状態であった。これらの堆積土層の下部まで「かわらけ」の細片が含まれており、このことによって本層は人為的な堆積土であると判断してよいと思われる。しかし、この堆積土が何を意味しているのかは明らかでない。

A-5区南半からA-9区までと、B-7～9区までの第Ⅲ層に該当する層は、しみのあるやや暗い黄褐色の砂質土層で、面は硬く、柱穴が検出された。柱穴覆土を掘り下げると、深さ5～10cm前後で本層は消滅し、柱穴内覆土と殆ど区別のつき難い軟質暗黒褐色土となり、このため掘り下げるにしたがって、力の入る方向に柱穴壁を削りすぎたり、柱穴下部が袋状に広がってしまう傾向が随所でみられた。したがって本層は下部暗黒褐色土層の上に、薄く堆積した土層である。本層はA・B-9区で終り、その南側は同一のレベルで乱れた暗黒褐色土層となり、置石列の遺構が検出された。

B-9区では、自然堆積層の残存部分があり、上部は暗黄褐色の粒子の荒い砂質土層で、以下、下部に向かって黄褐色砂質土層、暗青褐色細砂層、明黄褐色粘質細砂層等の薄い互層の重なった水成堆積層で、平成2年(1990)、本居館内B号井戸址発掘調査で、井戸址壁面に於いて検出さ

A-1

201.32m

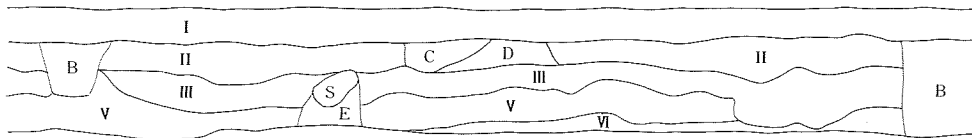


## A-1区

- I層 表土(旧耕作土層) 有機物を多量に含む。黒褐色を呈し、乾くと脱色して砂埃りとなる。  
 II層 黒褐色土層 小石を含む。  
 III層 暗黒褐色土層 小石を含み、II層より暗く粘質である。  
 IV層 暗黒褐色粘質土層 小石と若干の砂を含む。「かわらけ」の細片を包含する。  
 V層 暗黒褐色粘質土層 小石・小礫・若干の赤色粒子を含み、やゝ固く締まる。  
 A 黄褐色粘質土 ブロック状土塊、小石と若干の砂を含み、やゝ暗褐色の斑文部分がある。

A-3

201.32m

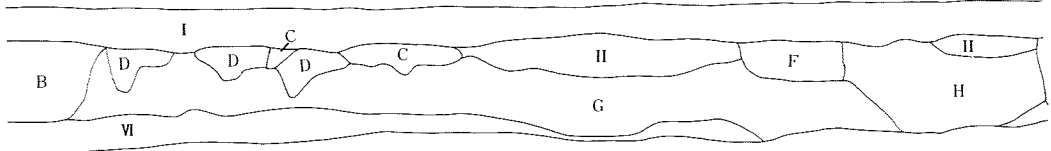


## A-3

- I、II、III、V層はA-1と同じ。  
 VI層 黄褐色砂礫層。砂礫は粒子が細かく発泡状を呈し、固く締まる。  
 B 黒褐色軟質土。有機物を多く含む。 C 黒褐色土 砂、小石、木炭の細片を含む。  
 D 暗黒褐色土 砂、小石、木炭の細片を含み、黄色土の小ブロックが混在する。  
 E 暗黒褐色粘質土 細砂を含み、やゝ固く締まる。(A-3では、IV層が完全に消滅している)

A-4

201.32m



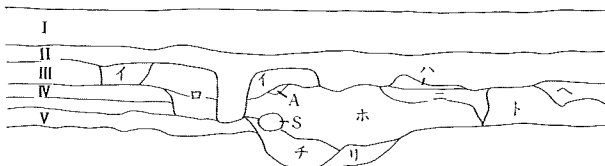
## A-4

- I、II、IV層 B、C、DはA-3と同じ。  
 F 黒褐色土 砂、小石を含む。 G 黄褐色土 小石と細砂を含み、若干の木炭細片を含む。  
 H 暗黄褐色土 小石と細砂を含み、やゝ固く締まる。黄褐色の斑文部分があり、木炭細片がまじる。  
 下部はやや暗色となる。

B-10

200.10m

B-10



- I層 表土A-1のI層と同じ。  
 II層 黒褐色土層 小石を含み、やゝ粘質  
 III層 黄褐色細砂土層 若干の小石を含む  
 IV層 暗青色細砂層 上部はやゝ黄褐色に移行し、下部は暗色となり粒子の荒い砂層となる。

## V 黄褐色細砂層 上部はきめの細かい砂層で、下部になるほど粒子が荒くなる。

- イ 暗褐色土、II層の下部に近い。 ロ 黄褐色土 細砂を含み、III層のブロックを含む。II層と混在する。 ハ 暗黒褐色土 粘質で固く締め、II層と分離できる。 ニ III層のブロック。ホ 暗黄褐色土細砂、小石、礫を含み、ロよりやゝ軟質。 ヘ 暗黒褐色土 細砂、小石を含み、やゝ固く締まる。 チ 暗黒褐色粘質土。 リ 暗黒褐色土 細砂、小石を含む。

0 1 m

第4図 土層図

れたものと同一の層である。本層はB-9南半で人為的に断ち切れ、A-9区でみられたと同様な暗黒褐色土層となる。

C区に於いては、図示しなかったが、表土下第Ⅱ層はA・Bの各区でみられたと同じ攪乱状の土層であったが、第Ⅲ層は、A・Bの5～9区、7～9区と同様の、しみのある暗黄褐色の粒子の荒い砂質土層で、やゝ硬く締まっていた。地下式横穴の竖穴部壁面では、本層は約1.3mの厚さがあり、最下部は砂礫層に移行する。その下部は暗黒色粘質土層で約60cm以上の厚さがあり、横穴はこの土層をくりぬいて、つくられていた。

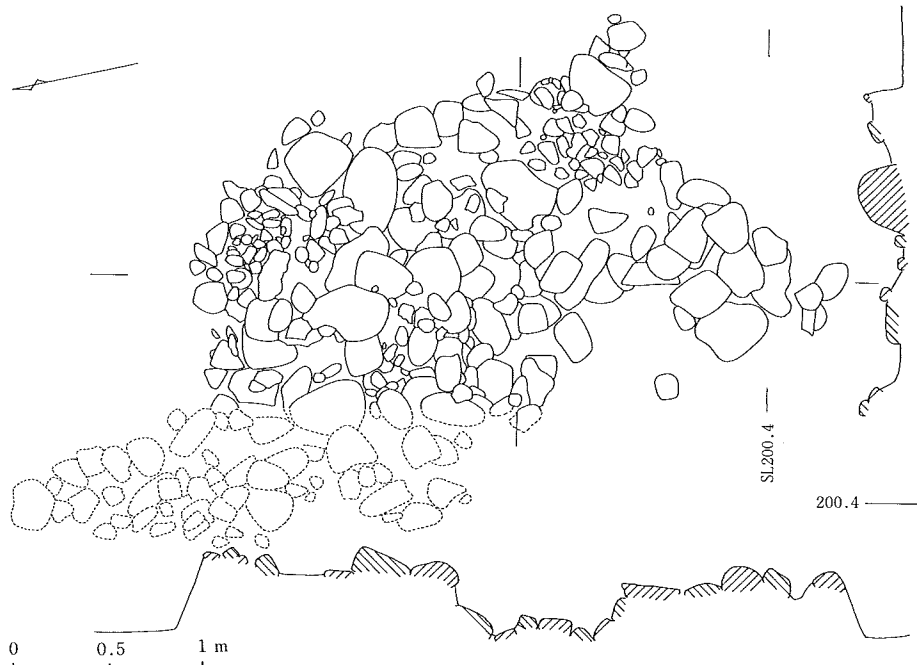
## 2. 遺 構

### 集石遺構（第5図）

A-3区の表土下から検出された。南北約3.5m、東西約2.1mの範囲に、径15～50cm前後の河原石を意図的不整形に基盤の暗黄褐色砂礫土層から積み上げ、10～15cm前後の割石を河原石の間に挟み込んであった。上部は耕作等によって乱れ、積石の縁は前後左右に移動しており、調査中に転落する状態であった。集石遺構は西側表土下に連続していたため、埋戻しの時点で一部検出作業を行った結果、なお集石は西側へ延びていることが判明した。図には延長部分を点線で示しておいた。集石内及びその周辺から中国産青磁片と常滑古窯産の陶片が6点出土している。

### 焼土址（第6図）

A-5区第Ⅱ層から検出された。長さ約2m、底部幅0.9～1m、高さ0.5mの堆状をなし、木炭片、灰、焼土を含む。とくに東端部分に木炭、灰、焼土が多量に集中していた。中央上部から中国銭熙寧元宝が出土した。切断調査はしなかったため図示はしなかった。



第5図 A-3区集石遺構図

### 柱穴址 (第6図)

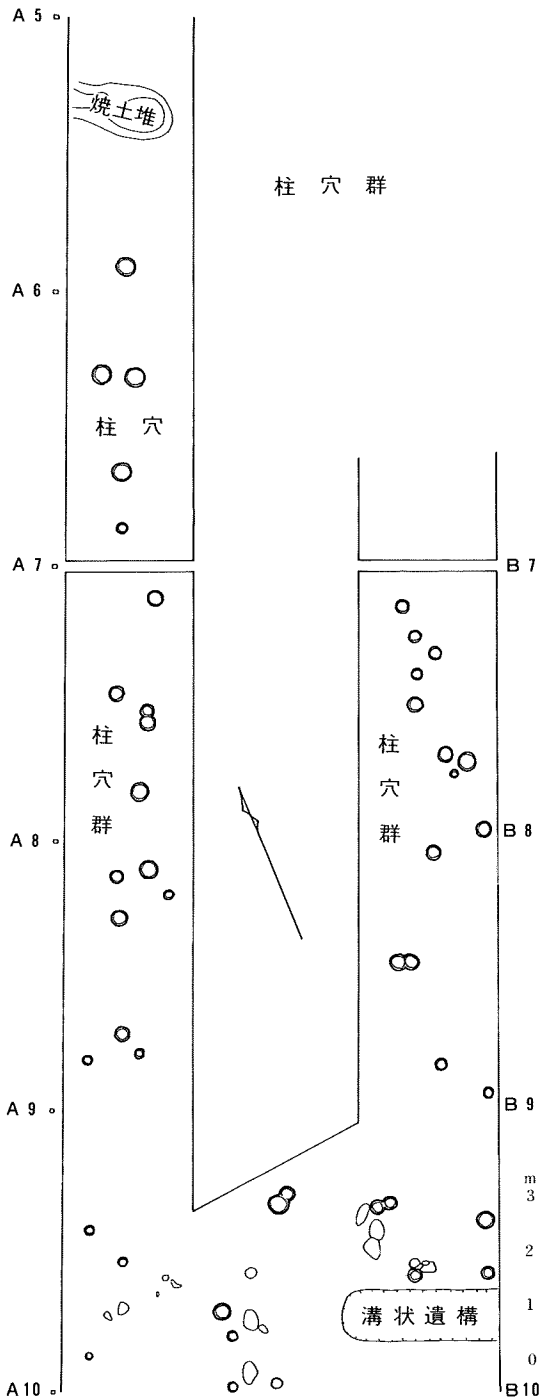
A-5~9区、B-7~9区、及びC区から集中的に検出され、その他D区に若干検出されている。A-5~9区、B-7~9区の柱穴は北に対して20度の方向、つまり土塁址の方向に併列するが、組み合わせはできなかった。第8図に示したように、C区の柱穴は地下式横穴の竪穴開口部を中心に、柱穴芯々間2.3mの間隔で組み合わせが可能であるが、地下式横穴と柱穴との相互の関係は不明である。D区の柱穴は置石に接して検出され、このうち2本は角柱穴であった。

### 置石列址 (第7図)

南側土塁址に接するD区で2列ほど検出された。北側の置石列は長さ約8.2mで、土塁址と平行に東西に連続する。この置石列のほぼ中央部分に焼土址が検出され、南側のいまひとつの置石列の間には、木炭の細片が多量に散布していた。この置石列より南へ約2.5mほど離れて、前記のいまひとつの東西に走る長さ約2mの置石列が検出されたが、西端で隅丸に南へ曲がって土塁址内に埋没する。この南内側面は硬く固められていた。南側置石列の西端に接して、幅、長さとも約1mないし1.5mのコの字形となる置石が検出された。これら置石列、置石周辺からは多量の「かわらけ」の破片と、これを金属の溶融に使用したため陶質化した坩堝坏、鉄滓、銅滓、常滑古窯陶片、中国産磁器片、鉄片、釘、刀子、銅鏝、有孔銅片などが出土した。

### 溝状遺構 (第6図・7図)

B-9区南端部分から検出された。長さ3m、幅約1m、深さ15cm前後の浅い溝で、南側の立ち上がりは不明確であった。置石列と平行して南へ延長される。



第6図 柱穴

### 地下式横穴遺構（第8図・第9図）

C区で検出された。従来から地元では「宮さんの井戸」といわれてきた遺構で、平成元年（1989）、井戸址確認調査を実施し、その最上面で円形の落ち込み覆土を検出し、A号井戸址としたところである。

井戸址周辺の遺構検出作業を終了した時点で、井戸址内遺物確認のため、若干の覆土掘り下げを実施したところ、深さ約1mで南側壁に空洞があり、さらに掘り下げ開口したところ地下式横穴の遺構となったものである。

地下式横穴の竪穴部上端径1.42m、深さ1.9m、横穴部入口幅0.7m、同高さ0.9m、奥行長さ2.4m、幅2.3m、現状で天井部までの高さ約1mで、一部落盤がみられる。横穴入口部より右奥50cmのところから中国産青磁稜花皿の破片及び覆土中より同青磁皿破片が出土した。

### 3. 遺物

はじめに掲げた一覧表は、A・Bの各調査区内から出土した中国産及び国内産陶磁類を年代別に配列したものである。

これらの陶磁類のほかに、素焼きの「かわらけ」、瓦質土器、羽釜破片、時期不明の陶磁類、17世紀以後の近世・近代陶磁類と、まったく居館跡とは時代の異なる縄文時代土器片が出土している。

また多数の釘類と刀子、鉄片、銀鑲、銅鑲、棒状銅製品、有孔銅製品破片等の金属製品、嘉祐通宝、熙寧元宝の中国銭のほか、砥石、有孔の軽石や金属を鍛造、溶融、鑄造した時に出る鉄滓、銅滓と埴塙に使用したと思われる鋳滓の付着した陶質化した「かわらけ」が出土している。

図版10・11・12は、これら遺物の一部で作図できるものを図示した。

第10図の1～4までは常滑古窯産の甕口縁部破片で、断面の形状から13世紀後半から15世紀前半までのもので、居館跡の年代を知るよい手掛りとなった。5～8までは、同じく常滑古窯産の甕破片で叩目があり、7・8は、同じく篋印、赤光沢の特徴から15世紀代のものである。9は同じく常滑古窯産の播鉢で、15世紀後半のもの、10は美濃大がま産の播鉢で16世紀中葉のもの、11・12も同じ播鉢の破片、13は9のものと同じ、15は古瀬戸播鉢で15世紀中葉のもの、15は美濃大がま産播鉢の底部で16世紀末のものである。

第11図1～24までは、「かわらけ」と底部の拓図である。殆ど口縁に黒色のすす状のものが付着しており、灯明皿として使われたことを示している。但し7は底部に孔があげられている。また8は、内面にガラス化した黒色鋳滓が付着し、陶質となった「かわらけ」で、埴塙に使ったものである。25～30までは、瓦質土器で火鉢に使ったものとされる。

第12図の1～26までは大小の釘類である。27は、刀子である。28～30は、鉄製品の破片である。31は、銀鑲で飾金具に用いたものであろう。32は、銅鑲で締金具ではなかろうか。33は、角棒状の銅製品で先端は尖っている。34は、稜と抉りのある棒状銅製品。35は、有孔の銅製品。36は、撚りの認められる鑲状の銅製品である。37は、安山岩の砥石。38は、粘板岩の砥石である。

一覧表に記載した陶磁類については、福岡市埋蔵文化財センター、専修大学教授亀井明德氏、愛知陶磁資料館井上喜久男氏の御教授による。

## ま と め

居館跡内の遺構のなかで、予想外のものといえばC区に検出された地下式横穴である。この遺構は、この地域では初見のもので類例がない。形態や規模からみた場合、東京都日野市平山遺跡で発掘調査された、第7・8・11号そのほかの地下式横穴墓と殆ど同一のものであって、墓址とみてよいのではなかろうか。(平山遺跡 第9次調査 日野市遺跡調査会 年報78(昭和53年度) II 日野市教育委員会、同遺跡調査会 1978)ただ上面入口部を中央にして組合せのできる柱穴との、相互の関係は明らかでない。

A-2・3区に於いて検出された集石遺構も明らかではないが、居館跡内の全体の位置からみれば、庭園部分に該当させてもよく、あるいは園地の組石とも考えられる。

A・B-9・10・11区・D区に検出された置石列、置石は、建物址に関係するものであろう。出土遺物に埴塼坏、鉄滓、銅滓等があったこと、木炭片が多量に散布していたことなどから、金属の鍛冶、鑄造に関する工房址であった可能性が高い。この場所より東25mほど離れた土塁下は、古くから鍛冶屋敷と伝えられる地名となっている。

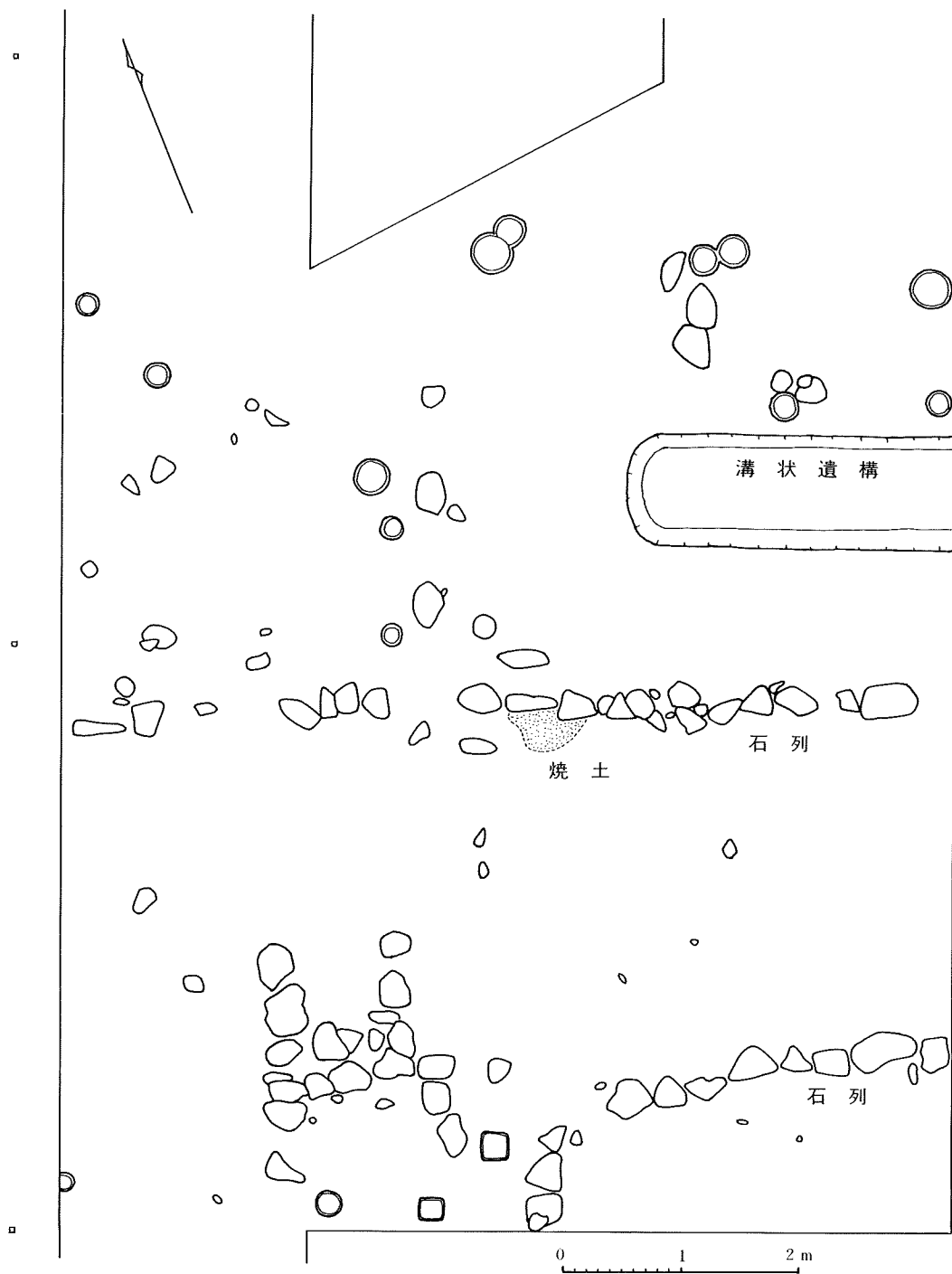
遺物の陶磁類については、一覧表に示したように、中国産、国内産ともに器種に多様性があり、また12世紀から16世紀まで長期に涉っているところに、大きな特色を持っている。言い換えれば安定、継続性のあったことを示していると同時に、質の高い文化性を保持していたともいえる。

おわりに、関係諸機関の御協力に厚く感謝すると共に、裾野市立富岡中学校生徒諸氏が、この発掘調査に参加され、炎天のもとで貴重な遺物を検出されたことを付記するものである。

葛山居館跡遺構確認調査出土陶磁編年表

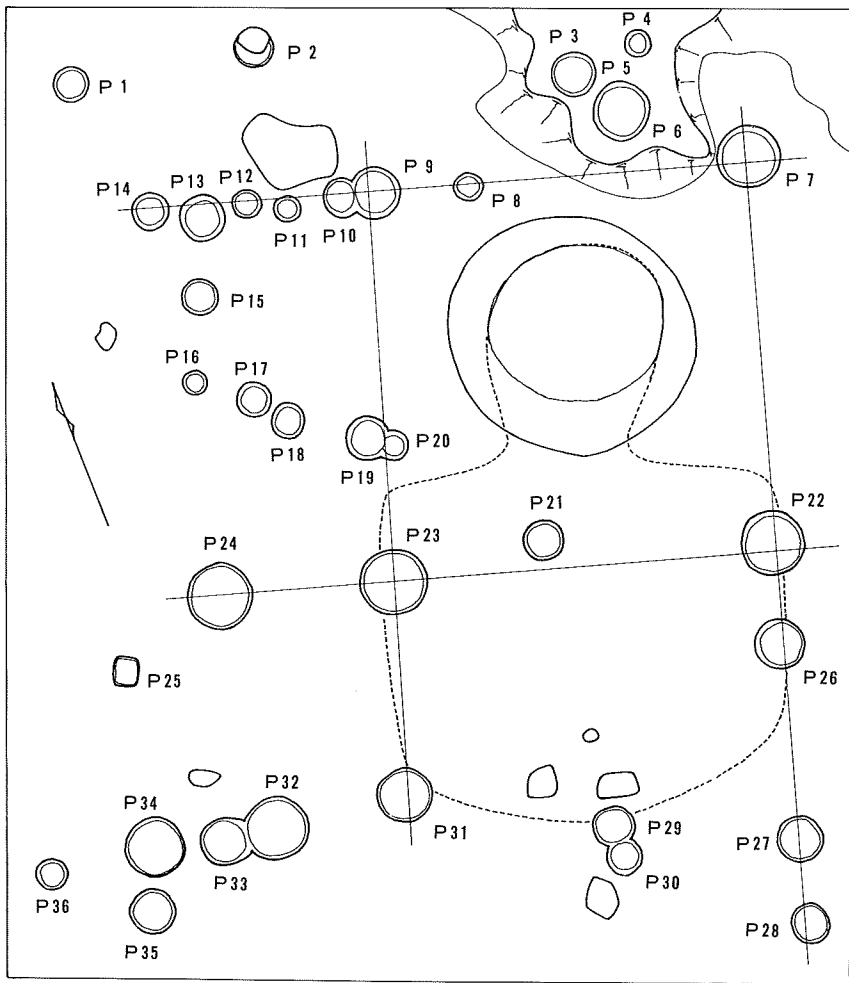
産別	年代 陶磁	11C		12C		13C		14C		15C		16C		17C		18C	数量	出土区		
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	以降				
中国産陶磁類	青磁碗片																2	B-3. A-11		
	青磁四耳壺片																2	B-1. 10		
	青白磁水注片																1	A-3 集石		
	青磁龍泉窯片																2	B-9. 10		
	青磁鎚蓮弁文碗片																1	C区		
	青磁碗ほか片																27	AB-3~11. C. D区		
	緑釉磁器盤片																5	A-2. 10		
	青磁鎚蓮弁文碗片																3	A-9. B-5. D区		
	青磁皿片																1	A-6		
	青磁盤片																4	A-10. C. D区		
	青磁四耳壺片																1	A-5		
	白磁碗片																1	D区		
	青磁(底部高台)片																2	A-4. B-3		
	青磁稜花皿片																3	A-5. 11. C区地下式横穴		
	黒褐色鉄釉陶磁片																1	A-6		
	白磁小碗片																1	A-11		
	中国産陶磁類	長径瓶片																5		
		渥美古窯かめ片																4	A-6. 10. B-5. 10	
		常滑古窯産かめ・壺片																数量多きため記入せず		
		常滑古窯産すり鉢片																5	A-2. 4. 7. B-9. C区表採	
常滑古窯産小口壺片																	1	B-1		
古瀬戸るい座文茶入片																	1	B-9		
古瀬戸青磁片																	1	B-3		
古瀬戸すり鉢片																	3	A-4. 10-11		
古瀬戸片口片																	1	D区		
古瀬戸天目茶碗片																	4	A-8. 10. B-10. D区		
古瀬戸灰釉平椀片																	3	B-9. 10. D区		
古瀬戸淡緑釉筒形香炉片																	2	A-8. 11		
古瀬戸大形鉢片																	5	A-1. 7. 9. 10. 11		
古瀬戸三足盤片																	12	A4. 6. 9. 10. 11. B3. 5. 10. D		
古瀬戸鉄釉四耳壺茶入片																	2	A-10. C区地下式横穴		
古瀬戸鉄釉黒片																	2	B-3. 4		
古瀬戸灰釉小皿片																	3	A-6. B-9. 10		
古瀬戸灰釉平椀片																	8	A-5. 10. 11. B-3. 4. 9. 10. D		
古瀬戸灰釉おろし皿片																	1	A-11		
古瀬戸大がま天目片																	1	表採		
古瀬戸大がま茶入片																	1	表採		
古瀬戸大がま灰釉片																	1	B-5		
古瀬戸のぼりがま天目片																	1	A-7		
古瀬戸のぼりがま灰釉片																	1	A-11		
古瀬戸のぼりがま緑釉碗片																	3	A-2. 10. D区		
古瀬戸のぼりがま香炉片																	1	A-11		
美濃大がますり鉢片																	3	A-1. 2. B-6		
美濃大がま灰釉小皿片																	1	A-11		
美濃大がま灰釉皿片																	1	B-10		
美濃志野灰釉小皿片																	数量多し			
美濃志野灰釉小皿片																	2	A-1. 2		
美濃志野灰釉皿片																	6	A-2. 3. 8. 9. 10. 11. D区		
初山窯鉄釉皿片																1	B-9			
志登呂窯すり鉢片																1	D区			

福岡市埋蔵文化財センター・専修大学教授亀井明德氏・愛知県陶磁資料館井上喜久男氏の教授による。

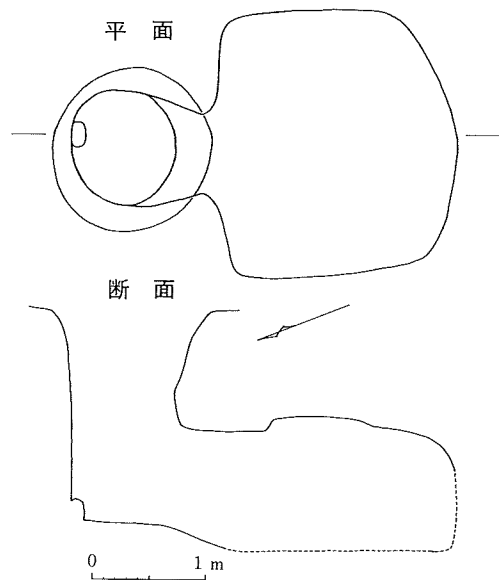


第7图 D区遺構平面图

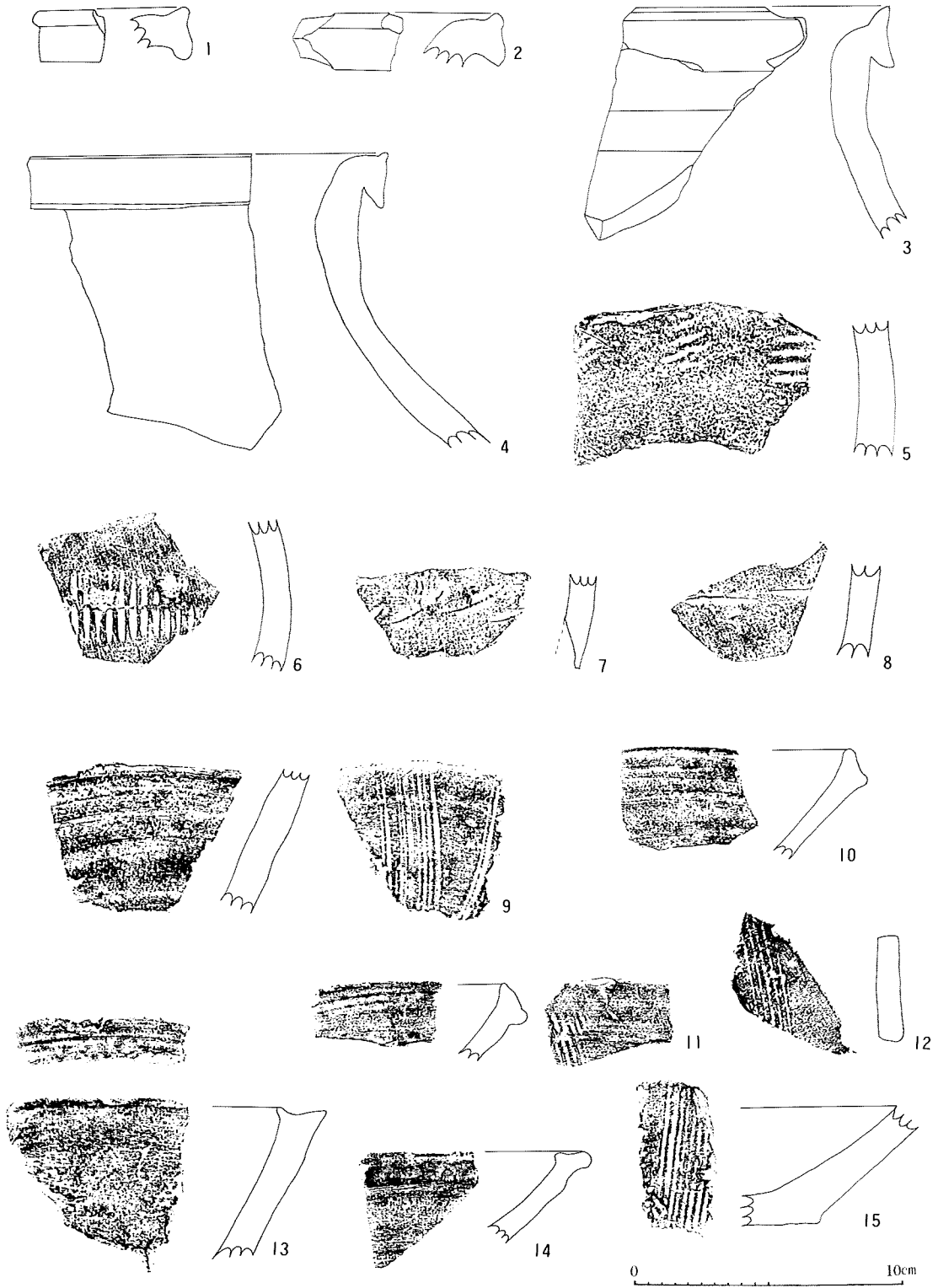




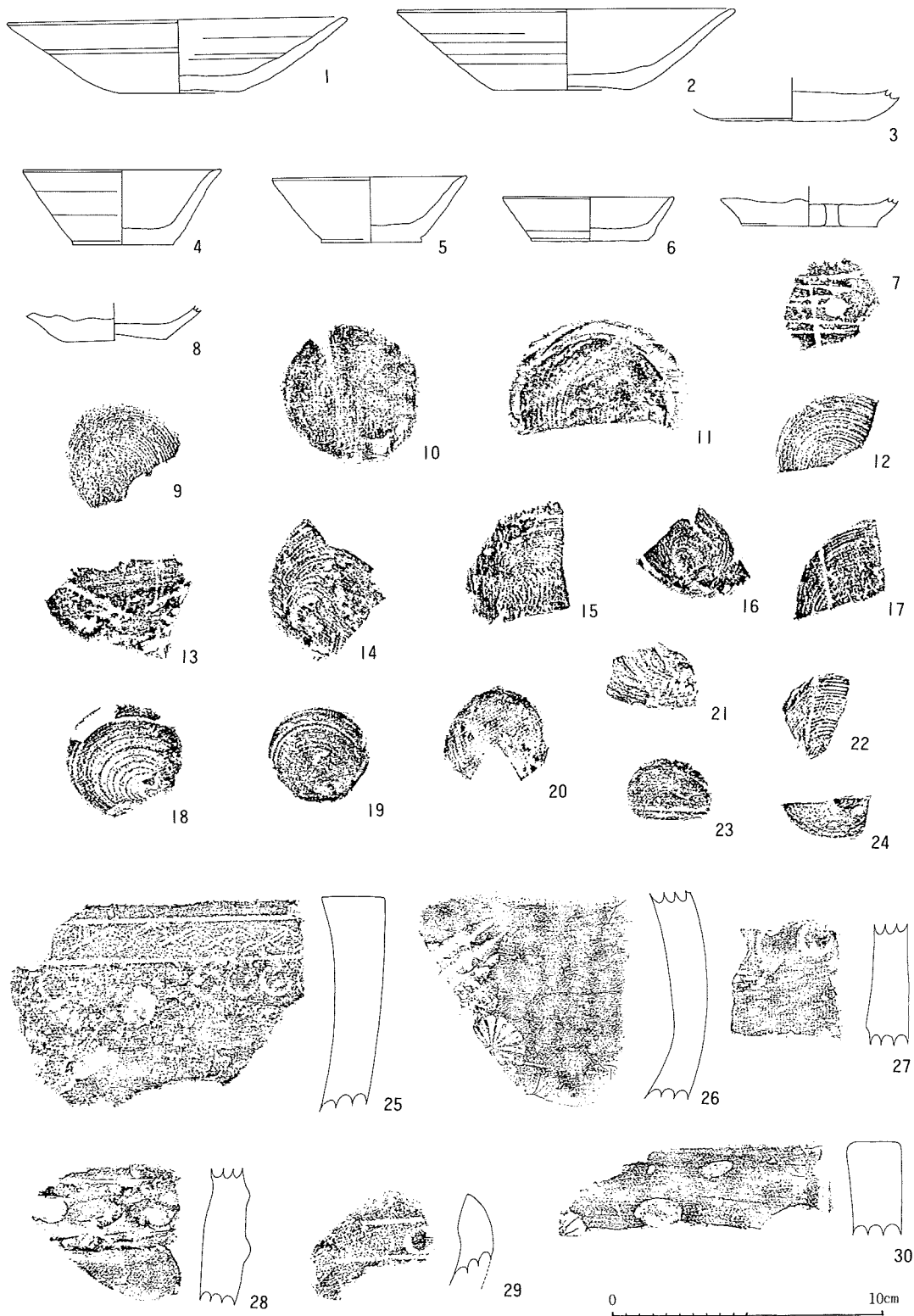
第 8 図 C 区遺構平面図



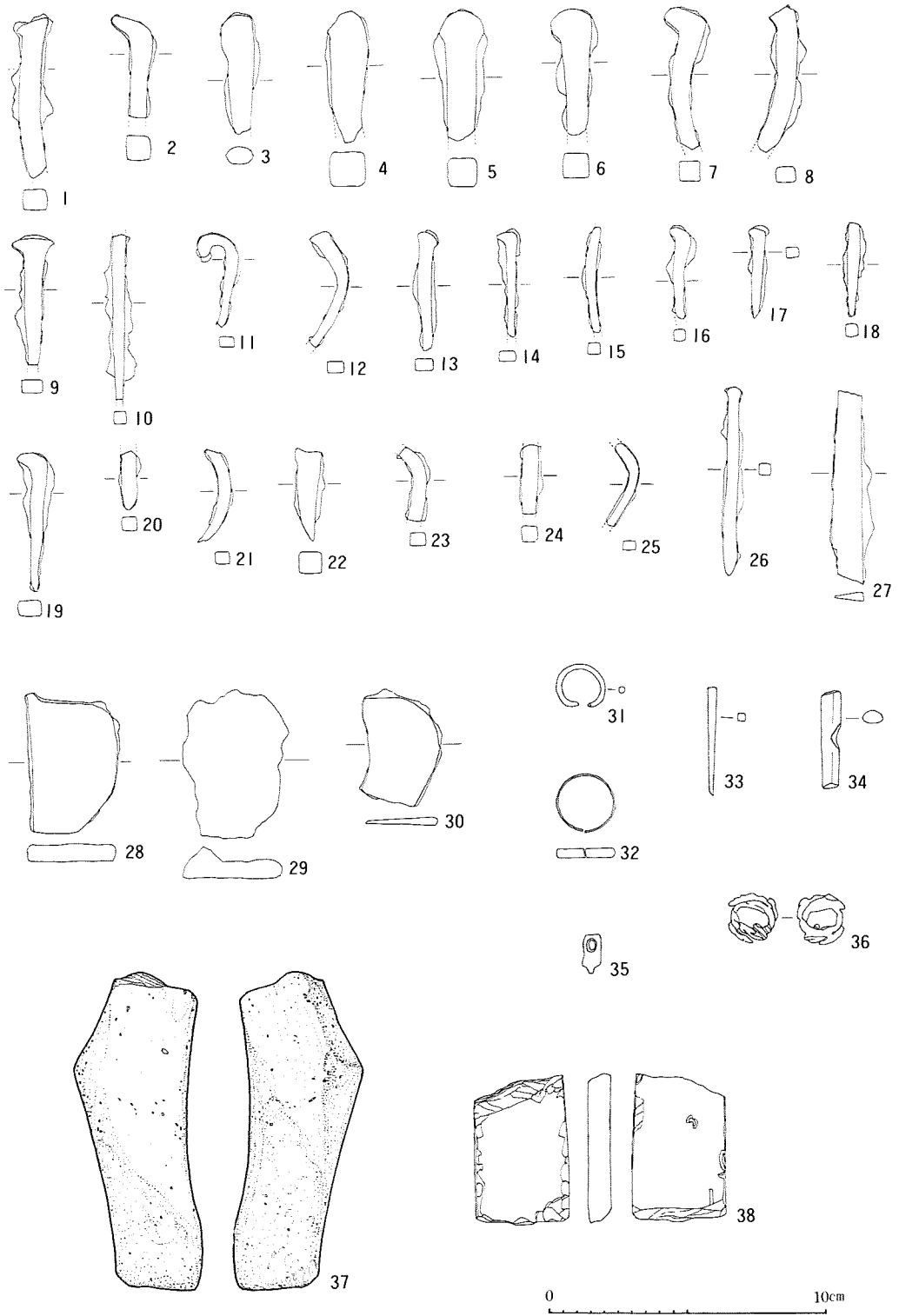
第 9 図 地下式横穴遺構



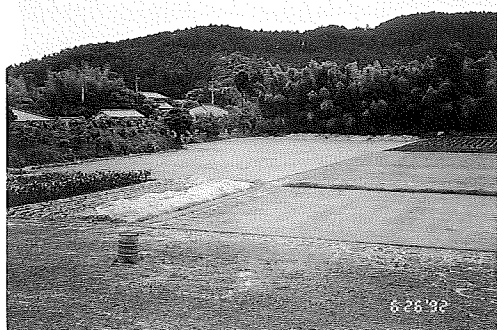
第10圖 陶磁類



第11図 かわらけと瓦質器



第12図 金属品と砥石



居館跡北土塁からみた発掘区



居館跡南土塁址からみた発掘区



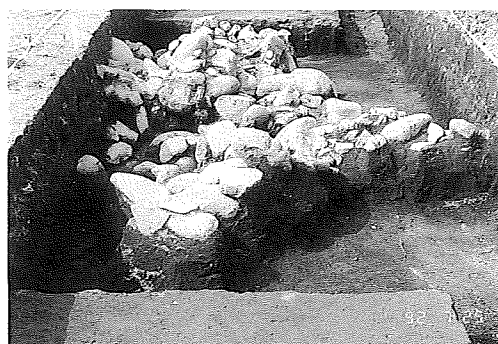
調査事前打ち合わせ



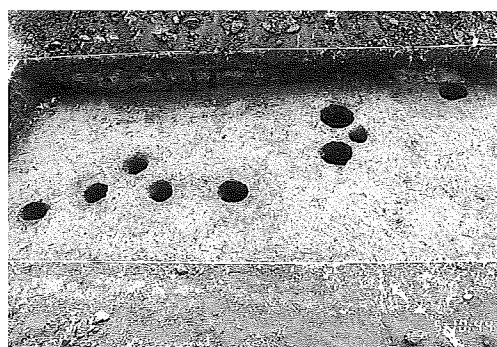
発掘開始状況



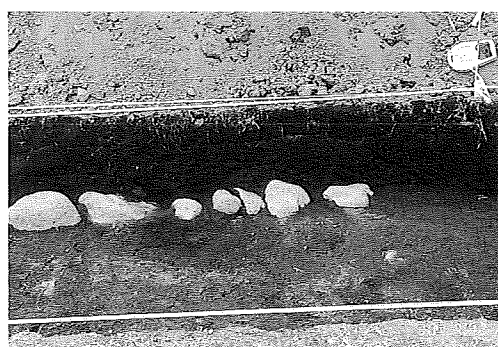
集石遺構の実測



集石遺構



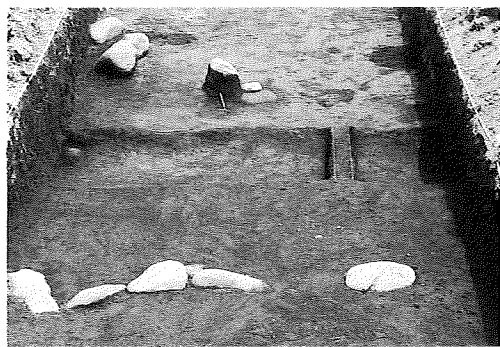
B-7区の柱穴状況



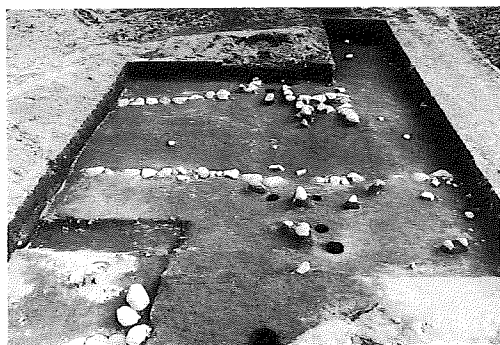
A-10・11区の置石列



B-9・10区の置石列



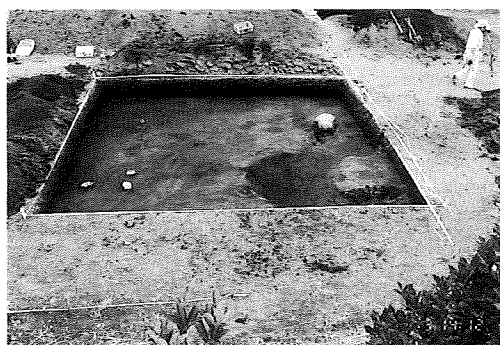
置石列と溝状



D区 遺構状況



A-3区 土層



C区 発掘状況



C区 遺構状況



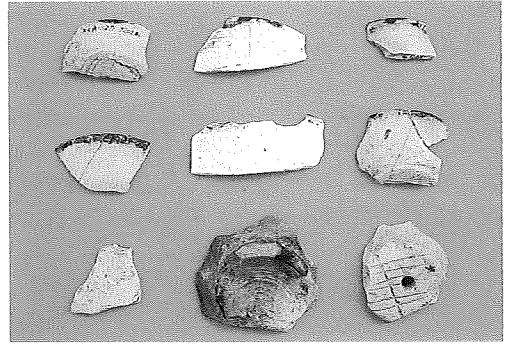
C区 地下式横穴開口部



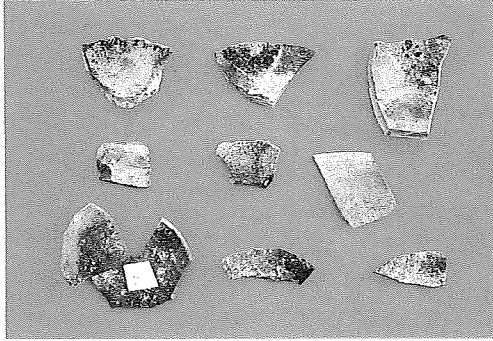
地下式横穴内壁



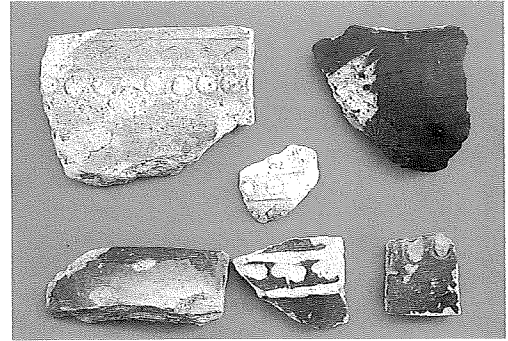
常滑陶片出土状況



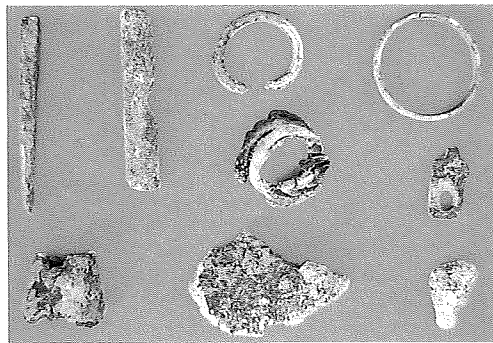
かわらけ



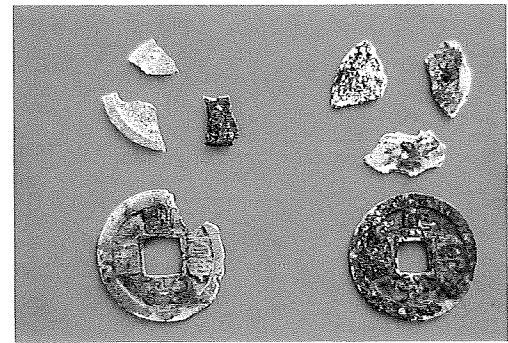
かわらけ るつぼ



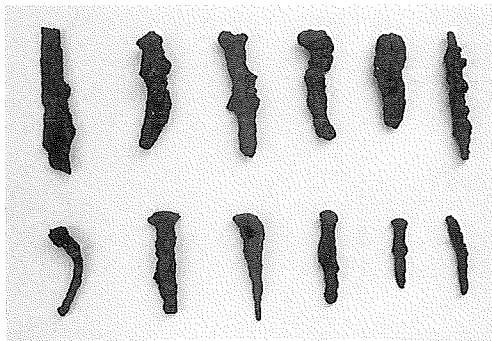
瓦質土器片



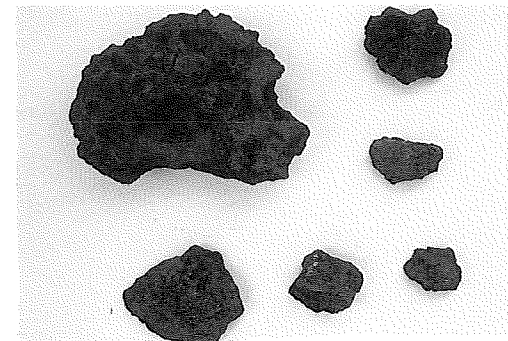
金属製品（中央上は銀鐶）



中国古銭



釘類



鉄滓



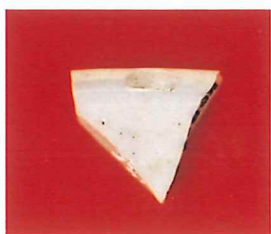


# 葛山居館跡遺構確認調査出土陶磁片

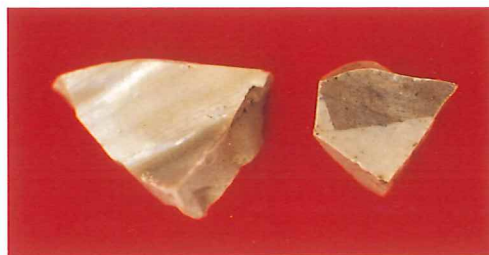
解 説



图1 中国産陶磁片



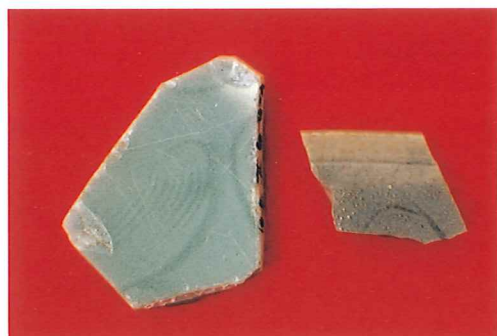
1 青磁碗口縁部片



2 青磁四耳壺片



3 青白磁水注胴部片



4 青磁劃花文(碗)片



5 青磁鎬蓮弁文碗片



6 青磁破片

图2 中国産陶磁片



7 緑釉盤破片



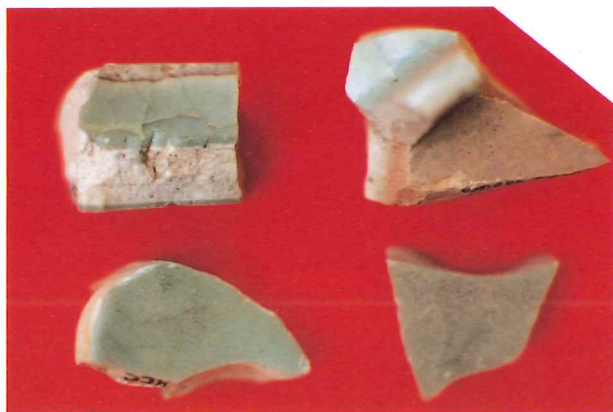
8 青磁皿底部片



9 青磁鎬蓮弁文碗片



10 青磁四耳壺片



11 青磁盤底部片



12 白磁(碗)口縁片



13 青磁底部片



14 白磁小碗片

图3 中国陶磁(15~16)・国内産陶磁片(16~19)



16 鉄釉陶器口縁片



15 青磁稜花皿片



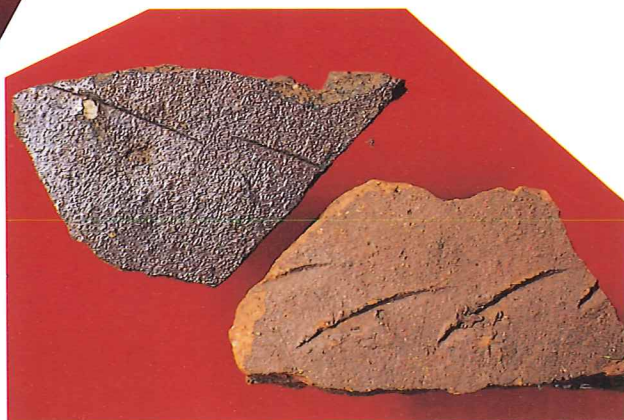
17 常滑古窯産かめ口縁片



19 常滑古窯産壺頸部片



18 常滑古窯産すり鉢片



20 常滑古窯産かめ胴部片

図4 国内産陶磁片



21 長頸瓶破片



23 るい座文茶入口縁部片



22 渥美古窯産大がめ片



24 瀬戸青磁片



25 瀬戸播鉢  
口縁部片



26 瀬戸播鉢片



27 瀬戸大平鉢片

图5 国内産陶磁片



28 瀬戸片口鉢片



29 瀬戸天目茶碗底部片



30 瀬戸天目茶碗片



31 瀬戸天目茶碗口縁部片



32 瀬戸灰釉平碗破片



33 瀬戸灰釉平碗片



35 瀬戸大形鉢破片

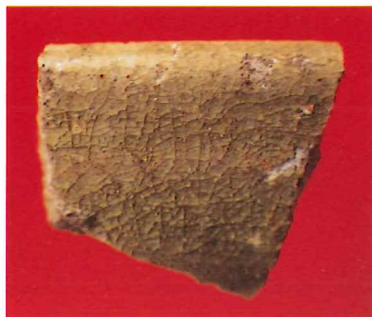


34 瀬戸筒形香炉口縁部片

図6 国内産陶磁片



36 瀬戸大形鉢破片



38 瀬戸盤口縁部片



37 瀬戸大形鉢破片



39 瀬戸三足盤口縁部片



40 瀬戸小皿口縁部片



41 瀬戸おろし皿口縁部片



42 瀬戸鉄釉四耳壺(茶入)片



43 瀬戸灰釉平碗口縁部片



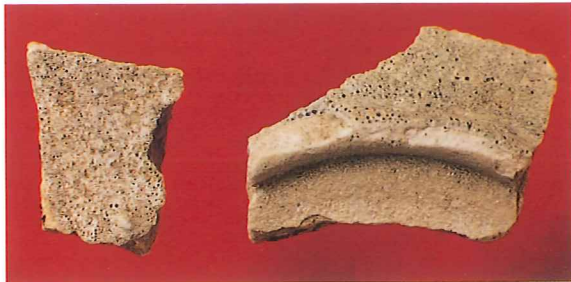
44 瀬戸黒鉄釉陶片



图7 国内産陶磁片



45 瀬戸鉄釉茶入小壺口縁部片



46 瀬戸灰釉小皿片



47 瀬戸陶片



48 瀬戸天目茶碗口縁部片



49 瀬戸緑釉流し碗破片



50 美濃播鉢口縁部片

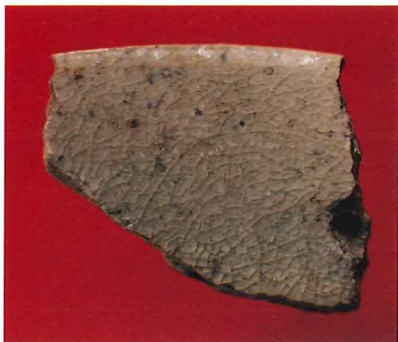


51 美濃播鉢口縁部片



52 志戸呂播鉢破片

图 8 国内産陶磁片



53 美濃灰釉小皿口縁部片



54 美濃灰緑釉皿底部片



55 美濃志野灰釉小皿破片



56 美濃播鉢底部片



57 浜松初山窯鉄釉皿底部片



58 瀬戸灰釉陶片

# 葛山居館跡遺構確認調査出土陶磁片 解説

## 図1-1 青磁碗口縁部片

口唇部平縁で外側は凸状縁帯になる。厚さ4mm、淡青色の釉がかけられる。胎土は淡灰青色でガラス化している。時期は12世紀。これとよく似た破片が1点ある。

## 図1-2 青磁四耳壺片

くびれ部と胴部破片で、厚さ5~10mm、灰青色の釉がかけられ、くびれ部に溜りがある。胎土は灰青色で厚い部分に気泡が入る。時期は12~13世紀。

## 図1-3 青白磁水注胴部片

厚さ4~4.5mm、ヘラ先で描いた花文状の陰刻文の上に淡青白色の釉がかけられ、刻文部は淡青色となる。胎土は淡灰白色。時期は12~13世紀後半。

## 図1-4 青磁劃花文(碗)片

左は厚さ4mm前後、内面に浅い花文状の刻文とそのなかに楕描文を描く。淡青色の釉がやや厚くかけられる。胎土は淡灰青色。右は口縁部分で厚さ3~4mm前後、内側に劃花文がみえる。やや淡青色の釉が薄くかけられる。胎土は濁灰青色。時期は12世紀後半から13世紀。竜泉窯産。

## 図1-5 青磁鍋蓮弁文碗片

厚さ3~6mm、蓮弁は比較的に広く11mm前後で、鎬は明瞭な部分と不明瞭な部分がある。淡青色の釉がかけられる。胎土はやや濁青灰色。時期は13世紀前半から後半。

## 図1-6 青磁破片

全部で27点あり、すべて小片である。このうち2点は曲線状の刻文の入るものがあるが、ほかは無文である。青白色、淡青色、淡緑青色、やや濁青色の釉がかけられるものに分けられ、貫入のあるものが8点ある。胎土もこれらの色調に準ずる。器形は不明なものが多いが、碗破片としてよいものもある。写真は、破片の大きいもの4点を選んだ。時期は13世紀から14世紀前半までのものである。

## 図2-7 緑釉盤破片

盤は水をうける平円形の容器で、食物を盛る容器には、台、脚が付いたものがある。本品は平底の盤である。厚さ4mm、口縁は丸く玉縁となって外反する。内側平底部分に草花文状の曲線の刻文があり、外帯立ち上がり内外面と内側平底部に、半透明濃緑色の釉がかけられる。胎土は灰色で角のある濃灰色の石粒と白色石粒を含み、露胎(無釉)の底部はザラつく。時期は13世紀。

## 図2-8 青磁皿底部片

高台部分で、灰色の釉がかけられる。胎土は濃灰色で、若干の白色石粒を含む。時期は13世紀後半から14世紀後半。

## 図2-9 青磁鍋蓮弁文碗片

厚さ3~6mm前後。蓮弁は淡青色の釉溜りとなって明瞭でない。胎土は淡青灰色。時期は13世紀後半から14世紀初め。

#### 図2-10 青磁四耳壺片

厚さ6～7mm。波状の凸起帯部と流巴浮文があり、淡青色の釉がやゝ厚くかけられる。胎土は淡灰青色。時期は14世紀前半。

#### 図2-11 青磁盤底部片

高台付の盤である。高台部の断面の形、厚さから3個体である。淡青色、濁青色の釉が厚くかけられ、若干の貫入（ひび割れ）が入る。内2点は、高台内が露胎である。胎土は灰白色、灰青色で、細かい気泡がみられる。時期は14世紀前半。

#### 図2-12 白磁（碗）口縁片

厚さ5～6mm。口唇部丸縁。碗破片であろうとする。淡白青色で極めて細い貫入がみられる。胎土は白灰色。時期は14世紀から15世紀後半。

#### 図2-13 青磁底部片

皿又は鉢の底部であろう。切高台と思われる。淡灰茶褐色の釉がやゝ薄くかけられる。細かい貫入がみられる。胎土は淡赤褐色。時期は15世紀後半。

#### 図2-14 白磁小碗片

外反立ち上がり部分で厚さ4mm、底部厚さ7～8mm。切高台で露胎、内面に白色の釉が薄くかけられ、細かい貫入がみられる。胎土は淡灰白色で、細かい気泡が入る。時期は15世紀前半。

#### 図3-15 青磁稜花文皿片

左上は厚さ5～6mm、口縁部破片で、ゆるやかな稜がみられる。内側に曲線を組合わせた雲形状の刻文が入る。右下も同じく口縁部破片で無文、中央は同小片で内側に曲線刻文が入る。共に淡濁青色の釉がかけられ、貫入がみられる。胎土は灰青色。時期は15世紀後半から16世紀前半。竜泉窯。

#### 図3-16 鉄釉陶器口縁片

厚さ3～4mm、口縁が外にわずかにくびれる。黒褐色斑文の釉がかけられる。胎土は暗灰色で硬く焼き締まる。時期は15世紀中葉。

#### 図3-17～20 常滑古窯かめ・播鉢・壺破片

数量が多いので一部破片を示した。16の上段2点は13世紀後半、下段右は14世紀、左は14世紀後半のもの。18は15世紀後半の播鉢で、内面に10～12単位の播目が放射状につけられている。19は15世紀代のものである。19は、小壺の頸部から肩部の破片で、15世紀後半のものである。14世紀代までのものは、淡緑色の自然釉がかかり、15世紀代以後は赤褐色、暗赤褐色の光沢をもつものに変化する。

#### 図4-21 長頸瓶破片

破片は5点あるが、写真では4点示した。胎土は灰ないし灰白色、暗灰色を呈する。灰釉がかけられる。長頸瓶というのは、壺状の器形に頸の長い口の付けられた形のものをいう。口縁は外反する。愛知県瀬戸の古窯産である。時期は11世紀。

#### 図4-22 渥美古窯大がめ片

厚さ9～13mm前後で、色調は灰色ないし暗赤褐色を呈し、胎土に砂目があり、若干の白色石

粒を含むものもある。硬く焼き締まる。時期は12世紀後から13世紀前半。

#### 図4-23 瀬戸るい座文茶入片

高熱を受けているため、口縁部から内面はガラス化した暗青緑色発泡状の異物が付着する。口頸部はくびれて立ち上がり、小突起の浮文（るいざ）がある。完形品は高さ8cm前後、口径7cm前後で胴部は8～9cm前後でふくらむ。鎌倉末から南北朝にかけての古瀬戸の特産品で、初期茶入の一形態である。時期は14世紀。

#### 図4-24 瀬戸青磁片

厚さ9mmで、淡青白色の釉がかけられ、貫入と発泡状の部分がある。胎土は灰白色で均質、硬く焼き締まる。時期は14世紀前半。

#### 図4-25 瀬戸播鉢口縁片

厚さ7mm前後、赤褐色の鬼板がかけられる。胎土に白色石粒を僅かに含み、硬く焼き締まる。口縁はくびれて外反し、内側に一条の縁帯をつくり出す。時期は15世紀中葉。

#### 図4-26 瀬戸播鉢片

厚さ7～8mm前後、赤褐色の鬼板がかけられる。内側に11条のすり目がある。胎土は赤褐色で均質、よく焼き締まる。時期は16世紀初め。

#### 図4-27 図5-28 瀬戸鉢類片

厚さ1cm、灰色で胎土の色も同じ、硬く焼き締まる。27、28は、大平鉢、片口鉢の破片である。時期は14世紀。

#### 図5-29～31 瀬戸天目茶碗破片

29は、底部破片で、外側は露胎（無釉）、内面に暗黒褐色の鉄釉がかけられる。胎土は灰白色。高台内側は浅い。時期は14世紀後半。30は、胎土は灰色、底部に近い部分は露胎で、内外面に暗茶褐色の釉がかけられる。時期は15世紀中葉。31は、口縁部破片で「くの字」に外反し、くびれ部に茶褐色の釉が溜り、黒褐色の条線となる。時期は15世紀末。

#### 図5-32、33 瀬戸灰釉平碗片

内外面に灰釉がかけられ、一部淡濁青色になり、貫入がみられる。胎土は灰白色で、よく焼き締まる。時期は15世紀前半。なおこれと同じもので、15世紀後半のものがある。

#### 図5-34 瀬戸筒形香炉口縁部片

左は厚さ4mm、右は5～7mm、淡灰緑色、淡緑色の釉がかけられ、貫入が入る。下部は露胎となる。胎土は灰白色で、硬く焼き締まる。時期は15世紀前半。

#### 図5-35 図6-36・37 瀬戸大形鉢破片

破片は6点ほどある。厚さ7～10mm前後。やゝ濁青色の釉がかけられ、貫入がみられる。胎土は灰白色、淡灰青色で、硬く焼き締まる。時期は15世紀前半。

#### 図6-38 瀬戸盤口縁部片

厚さ7mm。淡灰緑色の釉がかけられ、貫入がみられる。口唇内側は隆帯がある。胎土は灰白色で、硬く焼き締まる。時期は15世紀中葉。

図6-39 瀬戸三足盤口縁部片

9点ほどある。厚さは部分で異なるが7～10mm前後、灰釉がかけられる。胎土は灰白色、灰青色、淡黄白色で、よく焼き締まる。時期は15世紀前半。

図6-40 瀬戸小皿口縁部片

厚さ3mm。縁帯に灰釉がかけられ、下部は露胎となる。口縁はやゝ「くの字」に外反する。胎土は灰白色。時期は15世紀中葉

図6-41 瀬戸おろし皿口縁部片

厚さ4～5mm。口縁上端は2峰に分かれる。淡灰緑色の釉がかけられる。胎土は灰色。時期は15世紀中葉。

図6-42 瀬戸鉄釉四耳壺（茶入）片

厚さ5～6mm、暗茶褐色の釉がかけられる。胎土は暗灰色で、灰白色の石粒を含み、硬く焼き締まる。内面は暗灰色で釉はかけられていない。時期は15世紀。

図6-43 瀬戸灰釉平碗口縁部片

厚さ4～5mm、内外面に灰釉がかけられ、やゝ濁灰黄色を呈し、細かい貫入がみられる。胎土は灰濁色で、よく焼き締まる。時期は15世紀前半。

図6-44 瀬戸黒鉄釉陶片

厚さ7～9mm、黒色の釉がかけられ、部分的に梨膚状の発泡がみられる。光沢をもつ。胎土は灰白色、内面は無釉露胎となっている。時期は15世紀。

図7-45 瀬戸鉄釉茶入小壺口縁部片

厚さ2.5～3mm、内外面に茶黒色の釉がかけられ、光沢がある。時期は16世紀前半。

図7-46 瀬戸灰釉小皿片

右は底部破片で、内外面に灰釉がかけられ、小発泡がみられる。胎土は灰白色でよく焼き締まる。時期は15世紀末から16世紀初め。

図7-47 瀬戸陶片

厚さ5mm前後で、内外面に灰釉がかけられ、溜りの部分は淡緑色となる。全面に貫入がみられる。器形は不明。時期は16世紀末。

図7-48 瀬戸天目茶碗口縁部片

厚さ4～5mm、口縁はゆるやかな「くの字」をえがいて外反する。黒色の釉がかけられ光沢がある。胎土は灰色で、よく焼き締まる。時期は17世紀初め。

図7-49 瀬戸緑釉流し碗破片

厚さ3～4mm、釉が流れて溜り、緑色に映える。胎土は灰白色で、よく焼き締まる。時期は17世紀初め。

図7-50・51 美濃播鉢口縁部片

厚さ5～8mm前後で、内外面に暗青色（ねずみ色）の釉がかけられ、50は光沢がある。51の内面には巾1mmの太い播目が5条残る。時期は16世紀中葉。

図7-52 志戸呂播鉢破片

静岡県金谷町志戸呂窯産の播鉢片である。厚さ5～8mm、赤褐色の釉がかけられ、内面に18単位以上の密な播目がある。時期は16世紀中葉。

図8-53 美濃灰釉小皿口縁部片

厚さ4mm前後、内外面に灰釉がかけられ、細かい貫入がみられる。口縁はやゝくびれて外反する。胎土は灰白色で、硬く焼き締まる。胎土は黄褐色で均質、よく焼き締まる。時期は16世紀前半。

図8-54 美濃灰緑釉皿底部片

図7-49と殆ど同じ。底部の釉溜部分は淡緑色透明で、貫入がみられる。胎土は灰白色で、硬く焼き締まる。時期は16世紀後半。

図8-55 美濃志野灰釉小皿破片

厚さ4～6mm前後で、内外面に灰釉が厚くかけられ、乳灰白色を呈する。胎土は灰白色で、よく焼き締まる。時期は16世紀後半。

図8-56 美濃播鉢底部片

図7-50・51と殆ど同じ。時期は16世紀末、17世紀初め。

図8-57 浜松初山窯鉄釉皿底部破片

厚さ4～6mm前後で、茶～黒褐色の釉がかけられるが底部は露胎となる。切高台で低い。胎土は暗灰色で、黒色と白色の石粒を含み、硬く焼き締まる。時期は16世紀末。

図8-58 瀬戸灰釉陶片

口縁部破片であるが器形は不明。厚さ6～9mm前後で、淡灰緑色の釉がかけられる。胎土は灰色でやゝ暗い。硬く焼き締まる。時期は17世紀初頭。

以上、葛山居館跡遺構確認調査で出土した中国及び国内産の陶磁類を写真で示したが、破片の大小と数量によって、年代別に組むことができず、概報の編年表の順序の通りにはなっていないので、この点、御諒承をいただき度い。

解説文については、専修大学教授亀井明德氏、愛知陶磁資料館井上喜久男氏の御教授を得た。

なお参考文献として、井上喜久男著「尾張陶磁」ニューサイエンス社 平成4年。「世界陶磁全集3 日本中世」小学館 1992年版。他

「高坂古窯址群」常滑市教育委員会 1981。赤羽一郎「常滑－陶芸の歴史と技法」技法堂出版 1983、等を参考にした。

裾野市史調査報告書 第三集  
葛山居館跡遺構確認調査概報  
(付 同出土陶磁片図版及び解説)

1993年3月25日

編集 静岡県裾野市教育委員会  
発行 市史編さん室

〒410-11 裾野市茶畑399

印刷 みどり美術印刷株式会社